

アクションパッドの効果(5)
—SWD-CT10 と SWD-DA10 への適用—

1. 始めに

今回は、前報(4)までに実施対象となっていない CD トランスポートの SWD-CT10 と DA コンバーターの SWD-DA10 の組み合わせの再生経路も検討することにしました。

2. アクションパッドの試聴方法

通例 SWD-CT10 と SWD-DA10 の組み合わせの再生経路次のとおりです。

SWD-CT10→SWD-DA10→DA-3000→MYTEK DIGITAL 192-DSD

これらのうち、CCVは、既に前報(3)で対策を取りましたので、SWD-CT10 と SWD-DA10 が今回の対象となります。

現状は SWD-CT10 は大昔の Audiotechnica の防振金属 AT682 の上に置き、SWD-DA10 は板の上に直置きしていますので、それぞれ Audiotechnica の防振金属の上にアクションパッドを敷いて設置することにしました。写真は Audiotechnica の防振金属 AT682 とアクションパッドの組み合わせを示しています。



3. アクションパッドの試聴結果

SWD-CT10 により次のルートにより CD 再生でアクションパッドの効果を確認します。

SWD-CT10 (96KHz) →SWD-DA10 (192KHz) →DA-3000 (44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD (DA-3000 よりクロック供給)

ここで SWD-CT10 と SWD-DA10 には GPS-777 から、DA-3000 には ABS-7777 からクロックを供給します。上記のクロック周波数の選択は SWD-CT10 導入記(7)の結果を基に選択しています。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/12/b63be3f4a66e8713672b398f13f56e3b2.pdf>

始めに現状の設置条件で聴いておき、次にアクションパッドに敷き替えて同じ音源を聴き直しました。現状の設置条件でもクロック入力により細かい音は良くでていますが、普段から DSD に耳が慣れてきていますので、少しクールにすぎるきらいがあります。次に上記のアクションパッドに設置しますと、それほど効果はでないのではな
いかという予想に反し、クールな表情が和らぎ、PCM の音は PCM なりに落ち着いて聴ける状態になりました。

4. まとめ

SWD-CT10 と SWD-DA10 の組み合わせにおいてもアクションパッドの効果が認められました。

以上